八雲町郷土資料館農機類標本台帳

一般名称: 連枷、　唐竿

現地の通称:

資料種別: ◉ 製品-実物　○ 製品-レプリカ　○ 製品-模型　○ 製品図面　○ 写真等　○ 図書掲載　○ その他

資料種類:
☒ 人力用具　☒ 手押式　☐ 耕耘用　☒ 調製用
☐ 畜力用具　☐ 乗用式　☐ 施肥播種　☐ 施設類
☐ 原動機具　☐ 牽引式　☐ 管理用　☐ 機素
☐ トラクタ具　☐ 定置式　☐ 収穫用　☐ その他

管理プレートNo.

台帳No. Y152

相手先番号等

統一分類記号

製作者・会社: 不明

製造市・国名

製造年_購入年,標本収集年

使用目的・使用方法等

連枷(れんが)は、くるり棒、唐竿(からさお)、ぶりことも呼ばれ、穀物の脱穀具。莚上にひろげた穀物類を打穀部を回わしながら打ち叩いて脱穀する。稲では千歯を使うようになっても種切れ処理や脱ぼう(芒)に用いた。唐竿というように大陸伝来の在来農具であるが，現在でも雑穀の脱穀に用いられる。この他に穀打棒と鬼歯（こくうちぼう．おにば）があり、全長36～40cm，径5～6cm重量400～500gの木製棒で，この柄を握り雑穀等を叩いて脱穀する。さらに穀打台(こくうちだい)と呼び、木の台枠に竹または木の桁を10教本蒲鉾状または平面的に配列したもので．麦・豆などの束をこの面に強く打ちつけて脱穀する方法もある。

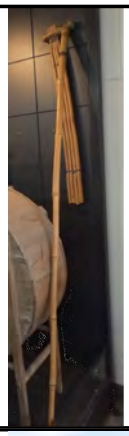
利用経過収集記録意義等

未調査

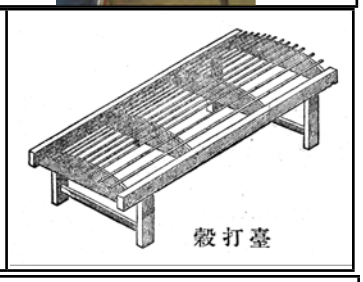
仕様書_解説等

右に全体図

未調査
1.5～2.0mの柄に80～90cmくらいの打穀部がついた竹製または木製の脱穀手用具。



外観特色関連図等



資料の所在

展示場付属倉庫

資料追記事項

資料管理経過

作業メモ追記文

台帳管理番号　・　Y152

農業機械学会北海道支部「農機DB作成委員会編